

## 大西さんの思い出

住吉光介（沼津工業高等専門学校）

大西さん（と、いつものように呼ばせてください）、学会や研究会で楽しく冗談を言いながら話をしたことをまず思い出します。一緒に研究をしたので物理の話も沢山したのですが、たわいもない話をいっぱいしたことを先に思い出します。そして、その楽しい気分で新しいアイデアが生まれたりしたものでした。昔を思い出し、大西さんとのエピソードを書いておきたいと思います。

大西さんとは学年が一年違いで、同世代。最初に接したのは大学院生のときで、若手夏の学校の時だと思いますが、印象に残っているのは京都大学基研で QCD 閉じ込めに関する研究会があったときだろうと思います。私は大学院生で東京都立大学から独り参加したのか、心細かったのを覚えています。京都大学の原子核グループは大人数で、現在の大物研究者に通じる、錚々たるメンバーで、質疑応答や議論も活発で、すごい活気がありました。そのとき、躊躇している私に大西さんが声をかけてくれて、会話に入ることができたのは彼のおかげだと思います。京都の周りのメンバーの方々ともすぐに打ち解けることができました。これは大西さんのフレンドリーかつ気配りのある行動によるものです。いまでも京都グループの方々とは親しく接することができるのは、大西さんのおかげです。

その後も物理学会や研究会で会うと楽しく話をする間柄となりました。特に物理学会のセッションの休憩中や、終わったあとの帰り道、あるいは飲み屋で色々と冗談を言い合うなかとなっていました。私が師匠から影響を受けた偽の関西弁でツッコむと大西さんがボケてくれる、とか、指鉄砲でバキューンと撃つ真似をすると「やられた～」と倒れ込むジェスチャーをして、大阪人の自然な反応であることを証明してくれたりしました。関西人として振る舞っていましたが、大阪と神戸は違う、神戸出身であることを強調していました。

そんなわけで、ちょっとした合間でも冗談を交えて話をして情報交換をする仲間として過ごしていました。共同研究は後から自然にうまれてきた感じです。記録をたどると 2000 年 1 月に茨城県東海村の原子力研究所で極限条件におけるハドロン科学研究会が行われて、そこで話をしたと思いますが、終わってからメールやりとりがあり、そこから研究がスタートしたようです。彼は斬新なアイデアを投げかけてくるので、それに応えるのは大変でした。また、私から何かを投げかけると予想外に広がりのある答えが返ってきたものです。

やがて共同研究のため、北海道大学の研究室を訪問する機会が増えました。札幌への出張は大変でしたが、大西さん達の研究室は居心地がよく、楽しかったのを覚えています。彼は札

幌への出張や滞在について非常に面倒見がよく、何か問題ないか、いつも心配りをしてくれました。特に2004年8月にPawl Danielwitzさんが来られたときにワークショップを開いたときに家族を連れて参加したのですが、このとき私の家族も含めて、非常にお世話になりました。妻や子供たちが楽しく過ごせるように気配りが行き届いていたことを覚えています。北大キャンパス内でバーベキュー、羊ヶ丘や小樽へのエクスカージョンもありました。Pawlさん向けの企画だったと思いますが、我々家族への配慮も念頭にあったと思います。こうしたことは非常にありがたく、私は安心して研究のことを考えることができました。

大西さんの北大時代には、石塚さんによる、核物質での原子核混合組成の予測、ストレンジネスを含む高温高密度物質の状態方程式データテーブルの構築を主に行いました。大西さんは極限物質を様々な観点で探求したいとあって、そこに宇宙・天体物理への応用を手掛けている私がお役にたてば、といった感じでした。大西さんは面白いアイデアを出してきます。原子核混合組成の結果をもとに超新星爆発で重元素合成を一気にできないか。ハイペロンを含む状態方程式を使ったら超新星が爆発したりしないか、など質問を投げかけてきます。こちらがなんとか答えると更に新しいアイデアを思いつく、といった具合でした。大西さんは物理の素養が幅広く、私はついていけなかったと思います。とんちんかんな答えをしていたかもしれませんが、それを真剣に受け止めて、また違うことを提案してくる、といった感じで非常に創造的だったと思います。

こうした研究のやりとりは、先に述べたように、さまざまな雑談の間に進んだものでした。北大から基研へ移動してからは、大西さんが忙しくなったのと、私が超新星のシミュレーション計算コードの開発で忙しくなってしまう、以前と同じように好きに雑談するわけにはいなくなつたように思います。それでも北大時代の研究成果の発展した形で共同研究をできたのは北大時代の議論で共通の強い思いがある程度残っていたからだと思います。

その後、大西さんは基研での研究活動に邁進されて、原子核物理を引っ張る役もこなし、活躍されていました。基研に宇宙関係の研究会など別用で行くこともあったのですが、以前ほどゆったり話をできず、すれ違いだったように思います。私はいくつかメールで研究のタネのようなものを送ったりしたのですが、返事をもらっていても私が多忙なまま、彼も忙しいだろうと思って日が過ぎてしまいました。そして、急な訃報をメールで受け取り、たいへんショックを受けました。どうしてもっと時間をとって話をしなかったのか後悔しています。

大西さん、昔のように冗談をいいながら物理の話をして、アイデアや意見を聞きたいことが沢山あります。今でもあなたがいけないのはまだ信じられませんが、大西さんならどう考えるか、思い出しながら進むことにします。大西さん、楽しい研究をどうもありがとうございました。ゆっくり休まれて、きっと好きな物理をやっていることでしょう。合掌。